

会議録

会議の名称	西東京市教育計画策定懇談会（第2回）
開催日時	平成24年8月27日（月曜日） 午後2時00分から午後4時10分まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室1・2
出席者	出席委員：羽豆座長、須永副座長、藤田委員、佐々木委員、堀内委員、松村委員、高野委員、西嶋委員、渡辺委員、大島委員、鈴木委員、橋本委員 欠席委員：近藤委員 事務局：池澤教育部長、櫻井教育部特命担当部長、坂本教育企画課長、山本学校運営課長、清水教育指導課長、西谷教育支援課長、礪崎社会教育課長、相原公民館長、奈良図書館長、宮坂教育部主幹、早川教育企画課長補佐、倉本企画調整係長 傍聴人：1人
議事	(1) 会議録の確認について (2) 計画策定における市民意識調査の調査項目について (3) 計画策定におけるヒアリングの実施について (4) その他
会議資料	資料1 西東京市教育計画策定懇談会第1回会議録 資料2 アンケート調査項目 検討シート 資料3 第2期教育振興基本計画審議経過報告（素案）の概要 資料4 ヒアリング調査の流れ（案） 資料5 アンケート調査について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>開会</p> <p>事務局より欠席者、資料の確認（近藤委員欠席） 議事に入る前に、前回の懇談会に出席できなかった藤田委員、鈴木委員より挨拶</p> <p>1 会議録の確認について</p> <p>第1回西東京市教育計画策定懇談会の議事録について、修正等の確認（修正なしで承認された。）</p> <p>2 計画策定における市民意識調査の調査項目について</p> <p>事務局より資料5説明 インテグリティサーチより資料2、3説明</p> <p>（小中学生調査） 日常生活の状況 羽豆座長： 松村委員より事前に「何をしているときがいちばん楽しいですか」という意見をいただいている。追加しようと思った目的や背景などを教えていただきたい。</p> <p>松村委員： 学校ではいじめの問題が大きくなっているが、子ども自身が何らかを楽しむ（夢中になること）ことがあれば、いじめといった問題が減っていくのではないだろうか。また子ども達は塾や習い事など、やらなければいけないことに追い込まれており、自由な時間がない。そういうストレスがいじめにつながっている気がする。楽しいことを自分で認識し、エネルギーを楽しいことや夢中になれることに向けられれば、いじめなどが減るのではないかという思いがあって、追加意見とした。</p>	

羽豆座長：

「楽しいこと」については、「学校・勉強について（４頁～）」に類似した設問がある。関連付けしながら、事務局で検討してほしい。

堀内委員：

朝食について。小学生で朝食は菓子パンだけという子どももいる。食べているかだけではなく、何を食べているのかも聞いてはどうだろうか。

松村委員：

塾に行くために夕飯を家族と一緒に摂れない子どもが多いことは気になる。何を食べているかは各家庭で違うので、誰と食事をしているのか（一人、家族、家族の中の誰か）という聞き方にすれば、家族のあり方が見えてくる気がする。夕飯くらいは家族で食べてほしいという思いがある。

鈴木委員：

「友達同士でいくところはどこですか」を意見としてあげた。前回調査の選択肢にはなかった「図書館」を入れてほしい。西東京市にどういう感覚を持った子どもがいるのか知りたくて、前回調査にはなかったカラオケや買い物を選択肢として挙げた。私くらいの世代が子どもの頃には絶対やっていなかったことを、子どもだけでやっていることとして増えている気がする。学校以外の過ごし方として、大人の感覚からすると驚くことでも、今の子どもたちは小さい頃から当たり前のようにやっているの、設問として取り上げてみてはどうだろうか。

また、「放課後や休日は何をして過ごしていますか」を挙げた。放課後や休日を積極的に過ごしている子どもがいる一方で、まったく外に出なかったり、外に出ているけれども、何となくたむろしているだけの子どもも増えているので、放課後や休日の過ごし方を加えてはどうかと思う。

藤田委員：

小学３年生くらいの子も達だけで、ゲームセンターから出てくる姿にとっても驚いた。「友だち同士でどこに行くか」という設問の選択肢に、ゲームセンターやアミューズメントパークなども入れてほしい。お金のトラブルも多い場所や小学生だけで出入りしてほしくない場所など、大人が知らないケースもあると思う。調査対象が小学４年生ならば、そういった場所（選択肢）も付け加えてほしい。

橋本委員：

「どんなことをして遊んでいますか」という設問だが、選択形式にしてほしい。小学生の場合、具体例があって選択できるほうが回答を得られやすいのではないだろうか。

渡辺委員：

中学生の多くは、部活動に多くの時間を費やしており、生活の柱にもなっている。「習い事や塾」あるいは「どんなことをして遊んでいるか」という設問の中に部活動を加えてもいいのではないかと。また質ではなく、どのくらいの時間を占めているかわかれば、実態に近づけるのではないかと思う。

学校・勉強について

羽豆座長：

「学校は楽しいですか」と聞くより「学校についてどう思いますか」として、選択肢に楽しいなどを入れるという聞き方がいいだろうか。

高野委員：

４年生、６年生が対象なので、６年生であれば漠然と聞いても答えられるだろう。４年生ならば「楽しいですか」と聞かれたほうが答えやすいと思う。「学校生活はどうですか」という聞き方は６年生、中学生ならば回答できると思う。

渡辺委員：

事前意見として4点挙げた。他の設問の大きさからすると、下位の設問項目になるかと思うが、個別対応の捉え方を設問に含められないだろうか。すでに学校では、いくつかの場面で個別対応が行われたり、時間外指導などが進んできているが、個別ニーズへの対応についてどう捉えているかなど、個別指導についての感想が聞きたいと思っている。

鈴木委員：

「学校で気になっていることはなんですか」という設問があるが、「困っていることは何か」という言葉で聞いたほうが、子どもにとってはわかりやすいのではないだろうか。

羽豆座長：

（「気になっていること」の前の設問にある）「何が楽しいか」という設問に対して、「困っていること」という言葉で聞いてみる。聞き方も検討課題だ。

堀内委員：

「委員からのご意見」に放課後教室などが挙げられているが、スクールカウンセラーについても設問を入れてはどうか。子ども達はスクールカウンセラーを利用しづらいのではないかと感じている。今後のスクールカウンセラーのあり方などの参考にできるのではないだろうか。

西嶋委員：

学校生活に関しては、さまざまな社会変化もあるが、根本的には生徒と先生の関係は変わっていないと思う。前回調査と結果を比較するのであれば、ある程度同じ内容で比較したほうが良いと思う。

地域とのかかわりについて

佐々木委員：

「地域のお祭りや清掃などに参加していますか」だが、子ども達はお祭りについて「地域行事に参加している」という意識を持っているのだろうか。ただ遊びに行くような感覚でお祭りを捉えている子どもが多いのではないだろうか。この聞き方では、子どもにとってお祭りと清掃が同じ地域のもの（行事・活動）という認識になっているか疑問だ。私の子どももお祭りは遊びに行くところで、ボランティアや地域活動への参加とは思っていない。お祭りについては具体的に、「ボランティアとしてのお祭りへの参加」とわかりやすくしたらどうだろうか。

鈴木委員：

ボランティアとして参加という聞き方なのか。私はただ遊びに行けばいいのかなと思っていた。

佐々木委員：

清掃は遊びではないので、「清掃」と「お祭り」を並べて聞いても回答はひとつなので、捉え方としてどうなのだろうか。

鈴木委員：

地域のお祭りにボランティアとして参加している子どもは少ないだろう。

藤田委員：

「委員からのご意見」にある「次のような地域での行事に参加していますか」という聞き方がいいのではないか。

羽豆座長：

子どもの目線で考えると、清掃とお祭りは全く違うものなので、一緒にするのはよくないだろう。

橋本委員：

居住地域にお祭りが無い、清掃活動のチャンスが無いなど、地域行事の企画自体が無いことも考えられる。行事は地域差があるので、子どもに聞いても答えようがないかもしれない。

羽豆座長：
地域性も大事なポイントだ。設問が作られた背景として、子どもが地域行事に参加している実態を聞きたいということではないだろうか。

橋本委員：
「地域行事があれば参加してみたいですか」という聞き方も切り口もひとつではないだろうか。

羽豆座長：
地域性を考慮すると設問が複雑になるかもしれない。

家庭の状況

藤田委員：
「委員からのご意見」にある「1日に携帯電話・パソコン等を使う時間はどれくらいですか」という設問はぜひ入れてほしい。また「自分専用の携帯電話・スマートフォンなどを持っていますか」にパソコンを追加してもいいのではないだろうか。

佐々木委員：
「委員からのご意見」にある「東日本大震災や原発事故について、家族や友達と話をしますか」という設問について。避難経路や災害時の対応などについて、家庭で話し合っているか、学校で教えられているかを聞くには、子どもが災害などについて意識できるような投げかけになる設問にできないだろうか。

須永副座長：
「東日本大震災や原発事故について」という意見は私が挙げたが、単純に家族とどんな話をしているのかを知りたいと思った。子どもなりに社会的関心を持っていると思うので、家族と話し合っているか、また親が社会情勢を子どもに教えているかなどを含めて聞いてみたいと思った。前回調査との違いは東日本大震災と原発事故というタイムリーな話題を切り口にして、家族で社会の出来事などを話しているかということだろう。

羽豆座長：
親子の会話として、社会的な出来事にどの程度興味・関心がもたれているのか、非常にタイミングのいい大事な設問だと思う。

松村委員：
地震後、少しの揺れでも起きてしまうなど、睡眠不足につながっている小学生の子どもも多い。睡眠状態について、不安が基で寝つきが悪くなっているかも聞いてみたい。

羽豆座長：
子どもの健康をいろいろな問題から考え、食事と並べて睡眠も要検討課題だ。

鈴木委員：
「家族とどんな話をしますか、まだどれくらい話をしますか」という設問を挙げた。社会的な話題も大事だが、中学生になると親と話をしなくなる人が多いので、親と話をしているのかという実態を聞きたい。子どもとしては話をしているつもりでも親としては全然話をしていないと感じることもある。親との会話の頻度や程度も子ども達が家族の中で自分の位置を考えてもらうきっかけになればと思うので、設問として入れてもらいたい。家庭の状況として、手伝いのことだけを聞くのは物足りないと思う。

羽豆座長：
「学校であったことや友だちのことなどを家族に話しますか」という設問に絡めて、もう少し広げ

て聞いてみたい。

西東京市について

須永副座長：

市への居住継続意向（「これからも西東京市に住んでいたいですか」）の設問は小中学生向きではないと思う。子どもは親と一緒に住んでいるので、子どもが住んでいたくないと思っても、親と一緒に住んでいる以上、自分の状況は変えられない。「西東京市についてどう思いますか」という設問だけで十分ではないだろうか。

羽豆座長：

「西東京のどんなところが好きか」という設問が必要ではないだろうか。子どもの立場でいいところを具体的に回答してもらってはどうか。

佐々木委員：

引越してきたのであれば比較対象はあるが、小さい頃から西東京市に住んでいる子どもの場合、比較対象がないので回答できるだろうか。

藤田委員：

設問の選択内容を具体化してはどうか。（公園や施設など具体例を記載する。）

将来のことについて

鈴木委員：

「尊敬する人はいますか」という設問を挙げた。中学2年生になると、市内の企業や事業所で職業体験をしている。しかし子どもたちは、将来〇〇をやりたいから、進学先の学校を非常に早い時期から考え（選ば）なければならなくなっている。進学について、どんどん低学年のうちから考えなくてはならなくて、自分がどんなことが好きか、何をやりたいかを知る時間をかけてもいいのではないかと思う。「将来、どのような人になりたいと思いますか」という設問は職業を聞いているわけではないが、職業を今の時点で書かせなくてもいいのではないか。ただ目標にするような素敵な人が身近にいるか、夢を持っているかということは大事で、子ども達にもいろいろ考えてほしいのでぜひ聞きたい。具体的な仕事（「大人になったらやりたい仕事はありますか」）については、違った切り口での聞き方もあるのではないだろうか。

高野委員：

6年生になると卒業時に将来何になりたいかを自分で考える。子どもはこちらが思った以上に、漠然とでも将来なりたいものを考えている。こういう機会に将来について聞けば、考えるきっかけにもなると思う。

西嶋委員：

職業体験の職種は将来、就業したい職種を希望しているわけでもないで、考えるきっかけとして、なりたい職業の設問があってもいいと思う。逆に「委員からのご意見」にある「尊敬する人はいますか、それは誰ですか」という設問は個人の宗教や信念を表すようなことなので、「誰ですか」という部分は外したほうがいだろう。「保護者を尊敬していますか」という設問であれば問題はない。※教育現場では、宗教観や信念、価値観に関わること、個人情報に近いもの（所属している団体など）を伺い知る質問はするべきではないとされている。高等学校で個人情報に関わるような質問は事故扱いになってしまう。（どういう本が好きか、誰を尊敬するかといった特定の価値観や宗教観などは聞いてはいけない。個人情報にも繋がる。例えば信仰している宗教の代表者名を挙げた場合に、周りに与える印象や影響について、判断ができない。）

鈴木委員：

「誰か」ではなくて、「尊敬する人が周りにいるか」ならばいいのではないか。身近なところに素敵な人がいると思えることはいいことだ。

渡辺委員：

調査の対象年齢によって、尊敬する人という言葉がどう伝わるだろうか。小学生と中学生では当然違うと思う。小学生の低学年に尊敬する人を聞いても回答ができるかは疑問だ。

職業についても中学 2 年生では非常に現実的な選択をしていて、「今はない、高校、大学に行ってから決める」としている雰囲気がある。「小さな頃は夢を持っていたが、現実が見えてきたから」と考える中学 2 年生は少なくないと思う。「なりたい仕事がない」、「考えたことがない」という選択肢は否定的なので、積極的に「今はない」、「まだ決めていない」という選択肢があってもいいのではないか。ある程度先の見通しを持っている中学生ならば「今は考えてなくて、これから先に考える」ことがあるだろう。

羽豆座長：

小学生の場合、なりたい職業の選択肢から選択できるだろうか。

高野委員：

対象が 4 年生、6 年生なので「尊敬」については、担任が説明をするだろう。職業の選択肢についても問題ないと思う。先ほど話にあった「尊敬をする人はいますか」という設問を一番上にすれば、その後の設問（将来像、なりたい職業）を答えやすいかもしれない。

羽豆座長：

将来像、なりたい職業について、問の順番も含め、要検討とする。

調査の回答は学校で実施するのか。それとも家庭に持ち帰って回答するのか。学校であれば先生から補足をしてもらえるが、回答方法（場所）についてもはっきりさせたほうがいいのではないだろうか。

事務局：

資料 5 で、調査方法としては実施形式は各校に任せるとしている。理由としては、それぞれの学校で状況がバラバラであることと、授業日数等の確保も難しいと聞くので、統一してというのは難しいかもしれない。

高野委員：

各校に任せると校長はかえって大変だと思う。だいたい 15 分、20 分と決めて一斉にやったほうがいだろう。家庭に持ち帰ると、学校に持ってくるのを忘れてしまうだろう。

藤田委員：

家庭に持って帰ると、子ども本人の意見ではないかもしれない。学校での回答がいいと思う。

その他

羽豆座長：

「地震や台風などが起きた場合のことを考えて、先生にはどんなことをしてほしいと思いますか」は、新しい設問だ。

「あなたは、いやなことやつらいことがあった時、相談できる人がいますか」だが、「いる」と回答した人は「相談相手は誰か」という二段構えになっているが、この回答形式は一般的なのか。子どもにとって回答しやすい設問を考える上で、設問のあり方も検討課題かと思う。

藤田委員：

問の回答形式はいいと思うが、「相談相手（できる人）」の選択肢に「お兄さん」「お姉さん」とあるが、「兄弟・姉妹」としたほうがいいのではないか。年上の子どもが年下の兄弟に言いやすいこともあると思う。

橋本委員：

「地震や台風が起きた場合のことを考えて、先生にはどんなことをしてほしいと思いますか」だが、「先生には」と限定していいのだろうか。「先生や地域の人たち」と枠を広げてみてはどうだろうか。

高野委員：

学校内の事を聞くのであれば「先生」でもいいが、「その他」の部門として聞くので、先生に限定しないほうがいいのではないかな。

須永副座長：

「地震や台風などが」という設問だが、これは大人が（子どもに対してやることを）考えるべきことで、子どもにどうしてほしいかを問いかけても仕方がないと思う。学校では安全マップなどの取組も行っているし、子どもからリクエストすることはあまりないのではないかな。

羽豆座長：

災害に備えて、子どものときから関心を持って行動できることを目指すならば、意味はあると思うが、社会の動きから考えて大事だろうか。内容については検討とする。

橋本委員：

この設問の選択肢は大人側がしなければいけないことではないだろうか。子どもから避難訓練をお願いするものではないと思う。

藤田委員：

してほしいことを聞くのではなく、地震や台風などの災害時のことを考えているか、また話しているかといった内容ならばいいのではないかな。

橋本委員：

避難場所を知っているか、防災グッズを準備しているかなど、具体例を挙げれば、わかりやすいと思う。

堀内委員：

いじめの問題について。先生が本当に気付けない場合もある。中学生ぐらいであれば、いじめを見た経験はほぼ全員あるのではないだろうか。自分が受けたいじめの内容を書くのは厳しいと思うが、自分が見たことのあるいじめならば、記入できる子どももいるのではないだろうか。回答形式を自由記述とすれば反応があるのではないだろうか。また先生に対するいじめもある。そういった設問もあったほうがいいのではないかな。

いじめと暴力が同列のような記述だが、男子は暴力もあるが、女子は暴力ではなく気づかないような方法で行われていることが多い。検挙率をみても女子の検挙率は少ない。暴力といじめを分けてもいいのではないだろうか。

西嶋委員：

いじめについては、文科省、東京都を始め、全国で夏休み前から全ての学校で調査をしたところだ。あらためて言わなくてもいいのではないかな。アンケートを市で回収し、何かあった時に学校でどう利用できるかだという気がする。ある程度、いじめのことは学校でやっているの信頼していただいてもいいと思う。

橋本委員：

このアンケート結果を前に進む力として、一般市民にはフィードバックされないのか。

西嶋委員：

個別の学校のデータは出ないが、東京都レベルで今回の（文科省、都が行った）調査結果の数字は出てくるだろう。西東京市での大雑把な数字が必要ならば、設問を入れていいと思う。

橋本委員：

西東京市の教育委員会が調査の際に何を目的にし、どう活用するのかということが大切だと思うが、私はこのアンケート結果を公表し周りの大人が活動するための材料になったらいいと思った。

松村委員：

少しずれるかもしれないが、いじめはすごく認識が難しい。いじめについて小中学生に聞く場合、本人はいじめを受けたと書いていても、いじめた側はそう思っていないこともある。ここでいじめについて回答を元に解決するのではないのであれば、例えばソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などのコミュニティサイトに悪口を書いたことがありますか、SNSなどのコミュニティサイトで嫌な思いをしたことがありますかとしたほうが、答えやすく把握しやすいのではないだろうか。

羽豆座長：

いじめに関しては、文科省、東京都なども調査をしており、何らかの形で結果の公表はされるだろう。西東京市だけの実態も必要ではという意見があったが、扱いについては検討課題としたい。公民館について、大島委員より意見が挙がっているので、お話をいただきたい。

大島委員：

公民館そのものが子どもたちに知られていないという現実がある。学校以外で人と集まったり、学んだりすることは大事だと思うので、設問を追加してもっと公民館（公民館の事業）を知ってほしいと考えている。職員も優れた人材が多いので、公民館は遊びに行ってもいい場所ということを知りし認識してほしい。

鈴木委員：

読書と図書館に関する設問を挙げた。子ども達は公立図書館と学校図書館の両方を利用していると思うが、本を読むことで、心が豊かになったり、知識が蓄積されるので、ぜひ本を読んでほしいと思っている。また学校図書館が整備されており、中学生の男子生徒も図書館に行くことは嫌ではないようだ。図書館を活用して、自分で学ぶことを知っている人は生涯学習にも繋がると思うので、小中学校のうちに図書館を活用してもらいたいと思っている。

羽豆座長：

図書館の設問に関して、事務局で検討していただきたい。

（一般市民調査）

学校教育について

鈴木委員：

質問だが、「今後、西東京市の公立学校教育で取り組んでほしいことは何ですか」という設問について。前回調査は保護者が対象だったが、今回は一般市民を対象にするのか。保護者の立場である市民と、一般市民ではそもそもの感覚が違うと思うがそれでも比較対象になるのか。母数が変わるのではないか。

事務局（インテージリサーチ）：

前回調査は保護者に回答をいただいた。今回は保護者に限らず子どものいない市民も含まれるが、集計の際に保護者（子どもがいる人）に絞り込んで集計をする。「保護者」の母数は全体数よりは少なくなる。

藤田委員：

小学校の芝生化が問題になっている。芝生化を保護者や学校が望んでいなくても、市から依頼されて、芝生化を進めているが、実際にどのくらいの人芝生化を望んでいるのだろうか。市にも実態を知ってほしいので、取り組んでほしいこととはずれてしまうが、選択肢の一つに入れてほしい。学校周辺は砂の飛散問題が減るので喜ばれると思うが、学校では芝生が傷むからといって、スポーツはできない状況もあるようだ。本来、芝生化は誰のためなのか、子ども達のためではないのかと思ってし

まう。

羽豆座長：

選択肢に追加するかは、今後検討していきたい。

西嶋委員：

質問だが、選択肢の「中高一貫教育」とは、何を指しているのか。西東京市で中高一貫教育についての取組という中身をイメージできない。

羽豆座長：

選択肢の意見として検討としたい。

「各委員からのご意見」について、質問等があるか。

渡辺委員：

2つ意見を挙げた。平成19年4月から特別支援教育がスタートした。特殊教育から特別支援教育へと舵をとり、障害のある子どもだけではなく全ての子どもについて、ひとりずつ手を当てていこうという方向性が謳われている。その理念と実際に自分の子どもの問題になった場合に、どのような印象を持つかというような設問があれば、特別支援教育について理解が広がるのではないかと思う。

羽豆座長：

大事な指摘だと思う。ひとつの意見として検討したい。

家庭教育について

鈴木委員：

「子どもと過ごすことは楽しいですか」という意見を挙げた。子どもと過ごすことを楽しいと思っていない親が増えている気がする。保護者以外の成人も調査対象なので、「地域とのつながり」にも関係してくるが、身近に子どもがいない人が増えている一方で、子どもはいないが学校行事に参加して子どもと積極的に関わろうとしている地域の人もいる。子育てとして躰や家庭教育も大事だが、親子で楽しむ時間を持つことは非常に大事だと思うので、大人が子どもと過ごすことを楽しんでいるかを、家庭でも聞いてほしい。幼稚園に入ったらもう手が離れたと思っている親がいる気がして残念だ。教育とは常に教え育てるだけでなく、親も一緒に楽しく育っていくという感覚がない人がいるように思うので、そのことにアンケートで気がついてほしい。

羽豆座長：

親子関係ということは大事なポイントだ。そういうことも検討してほしいという意見だ。

須永副座長：

設問の文章が堅苦しい印象で読んでいて疲れる。一般市民が対象ならばもっとリラックスしたやわらかい表現にできないだろうか。

羽豆座長：

内容的には問題はないが、設問の表現をソフトに、気軽に答えられるようにしてほしい。

重視している内容に安全や防災に関する事などは選択肢として必要ではないだろうか。検討してほしい。

いじめではなく、非行防止や健全育成といったことを社会の動きと捉えた内容も大切なひとつだろう。

地域とのつながりについて

須永副座長：

そもそも地域社会に関心があるのかを聞きたい。自分自身も退職後にボランティアや地域活動に関わり、いろいろな経験をしたので、まず地域社会に関心があるかを聞いたほうがいいだろう。私も仕

事をしているときは地域社会よりも仕事に気持ちがあつた。多くの人は同じだと思うが、それでも地域活動をやっている人はいる。ただ地域社会（活動）に大きな関心を持てるかどうかは大きな入口になるかと思う。関わろうという気持ちや関心がある人は機会を探して何とかすると思う。

羽豆座長：

まずどの程度の関心を持っているのかをはっきりさせたほうがいいだろう。

高野委員：

選択肢の数について。16頁の「子どもたちの登下校や遊んでいるときなどに、地域の子どもたち（小中学生）を見守っていますか」では選択肢が5つある。8頁の「西東京市についてどう思うか」も選択肢が5つだが、選択肢は4つでいいのではないだろうか。5つにするとどうしても中心に集中してしまうので、「どちらともいえない」「どちらでもない」を削除したほうがいいのではないか。

橋本委員：

先ほど地域社会（活動）への関心の話があつたが、退職後ということは大きなキーワードだと思う。例えば退職したら手伝えるといった将来的なことを含めた気持ちを聞いてはどうか。地域活動に関わっている立場からすると、アンケート結果をフィードバックしてもらえれば、今後の地域活動について、ある程度の指針を決めることができたり、人材を掘り起こせるかもしれない。公表についても検討していただき、必要な情報をフィードバックしてほしい。

羽豆座長：

将来的なことを把握できる設問を検討してほしい。

藤田委員：

設問になりうるか不明だが、公園で遊んでいる子どもたちに対して、うるさいと注意する（苦情を出す）ケースが増えている。危険なことに対してはもちろん注意してほしいと思うが、遊んでいることに注意することはどうなのだろうか。もう少し子どもを温かく受け止めてほしいと思う。自分が子どもの頃も賑やかに遊んできた、どういうことで怒られたかということに気づききっかけや、そういうことに意識を向けられるような問いかけが盛り込まれるとありがたいと思う。

生涯学習について

須永副座長：

設問そのものよりも生涯学習という言葉に一般市民はなじみのない人が多い。西東京市生涯学習推進計画の目的として「西東京市では、必要に応じて、いつでも、どこでも、だれもが何でも学び、その成果を地域・社会で活かせる生涯学習社会を、市民・団体・企業・行政等様々な主体の参画と協働によって実現していきます。」と掲載してある。設問の前文として、計画の目的の文章を入れ、次に設問としたほうが答えやすいのではないか。導入部分に文章を補う必要があると思う。また先ほど公民館の話も出たが、公民館についても何らかの文章があれば、回答しやすくなるのではないだろうか。

橋本委員：

公民館や図書館の事業（学べること、事業内容など）を加えてはどうか。アンケートをとるだけのツールではなく、対象者に様々なことをアピールしていくこともひとつの手だと思う。

大島委員：

公民館だよりを毎月発行しているが、知られていない。発行側は熱心に情報収集し作成しているが、生涯学習や地域活動のきっかけにもなる情報紙なので活用して仲間になってほしいと思う。

羽豆座長：

生涯学習の設問については、修正が必要かもしれない。特に図書館、公民館等の活動についても検討すべき課題がある。

橋本委員：

社会福祉協議会が力を入れて小学校通学区域を中心とし、住民参加型のまちづくり活動（ふれあいのまちづくり事業）を行っている。町会がない地域で町会に代わるようなシステム作りをしているので、そのようなことも含めてほしい。まちづくり活動として各地域で行っている生涯学習やボランティアなども入ってくると思う。

※まちづくり事業は住民参加型の活動で主に一般市民が参加している。

須永副座長：

16 頁の「あなたは身近な小学校・中学校の取り組みやそこを拠点として行われる地域活動について、どのようなことなら、参加・協力してもよいと思いますか」に該当する活動内容だろう。

藤田委員：

18 頁 「この一年間で、次のような地域の施設を利用しましたか」について。具体的な公園名、施設名が挙がっているが、遊びや利用している施設名を正式に知っているだろうか。回答する側としては一見しただけでも疲れる印象だ。ホール名や図書館名は具体的でもいいと思うが、公園名は通称名で覚えている場合もあるので、正式名でなくてもいいのではないかと。利用頻度の高い公園を知りたいのであれば、正式名でいいと思うが、整理したほうがいいのではないだろうか。

鈴木委員：

「児童遊園等」と「それ以外の公園」に分けているのはレベルや規模の違いだと思うが、あえて分ける必要があるのだろうか。

羽豆座長：

前回調査で分けた意図があったのだろう。そこを受け継ぐかどうかは検討としたい。

西東京市について

鈴木委員：

「子供たちを取り巻く環境はこの数年、どのように変化してきたと思いますか」の選択肢だが、マイナス面しかない。取り巻く環境に心配は多いが、マイナス面（低下、差の拡大など）ばかりを聞くのはどうだろうか。違う聞き方は出来ないだろうか。

羽豆座長：

変化についてマイナス面よりも、プラス面、いいものがたくさんあるという表現がいいだろう。

鈴木委員：

「子育て支援策として行政に期待することは何ですか」という意見を挙げたが、調査票の全体像を見て、取り入れるかを決めたほうがいいだろう。子育て支援については、保護者としては知りたい部分だ。

事務局：

子育て支援策についてだが、子育て支援部で子育て計画（子育て・子育てワイワイプラン）を策定する際に、同じような内容を聞いている。他部局でも市民意識調査を行っているので、基本的には重複する内容については、関連部局で聞いてもらい、省略している。関連部局でカバーが出来るのであれば、こちらでしか聞けない内容を優先したい。回答者の負担にならないように、設問数については一定の上限を設定しなくてはならない。庁内には各種データがあるので、参考にできるものは多い。

橋本委員：

調査票のレイアウトだが、文字ばかりでなく、挿絵や写真などを入れ、回答しようと思える工夫が必要ではないか。

その他

堀内委員：

防災等について、行政などに求めることの設問だけではなく、市民自身が何をどのくらいやっているかということも聞いてはどうか。防災について、認知しているもの（避難場所、避難経路等）や準備しているもの（食料、防災具など）について、考えることもできると思う。

羽豆座長：

行政がやってくれるという考えでなく、自分達が何を準備しておくべきか、心がけておくべきかを聞くことは大事だろう。

橋本委員：

防災と防犯は混在しがちだ。防犯についても設問があれば、防犯の推進できるかと思う。

羽豆座長：

防災、防犯はこれからのまちづくりについてのメインだと思う。

基本属性

※特になし

羽豆座長：

設問ごとに選択の仕方（シングル回答、複数回答にするか）も検討が必要になるだろう。回答する立場が大事だと思うので、事務局にて幅広く検討をお願いしたい。

事務局：

意見を踏まえ、事務局で内容を検討したい。調査票案を作成し調査前に委員の皆さんにお渡しする。意見、気がついた点は連絡をしていただきたい。

3 計画策定におけるヒアリングの実施について

事務局より資料説明

※ヒアリングについて、意見はなかったが気がついた点があれば事務局まで連絡することとした。

4 その他

次回の懇談会日程：11月13日（火曜日）午後2時～4時 田無庁舎内会議室 予定（渡辺委員欠席）

以上